

- よく考える子
- 思いやりのある子
- 最後までやりぬく子
- すすんで体をきたえる子



【全国学力・学習状況調査の結果から】

4月23日(木)に第6学年を対象に実施した全国学力・学習状況調査の結果についてお知らせします。今年度は国語・算数の2教科が実施されました。すでに文部科学省から新聞などで結果が公表されていますが、本校においても今回の結果が「全国平均」と比較してどのような状況であるかをお知らせします。

＜平均正答率の表記方法について＞

「全国平均と本校を比較したポイントの差」を右のように表します。

+5.0ポイント以上	上回っている
+2.0 ～ +4.9ポイント	やや上回っている
-1.9 ～ +1.9ポイント	同様である
-2.0 ～ -4.9ポイント	やや下回っている
-5.0ポイント以下	下回っている

【国語】…全国平均を下回っています。

□学習指導要領の領域

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」

「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」…下回っている

□評価の観点

「知識・技能」「思考・判断・表現」…下回っている

□問題形式

選択式 記述式 …下回っている

短答式 …やや下回っている



【知識・技能】

・「言葉の特徴や使い方に関する事項」においては、「比喩や反復などの表現に気づくことができるかどうかをみる」問題、「情報の扱い方に関する事項」においては、「情報と情報との関係について理解することができるかどうかをみる」問題は全国平均を下回っていて、課題があります。

・「漢字を文の中で正しく使えるかどうかをみる」問題は、全国平均とほぼ同程度でした。

【思考・判断・表現】

・特に課題として見られるのは、「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる」問題などで全国平均を下回っています。

・記述式の問題における無回答の割合が、全国平均とほぼ同程度の問題もあり、児童の頑張りが見られました。

【改善の方向】

○本校で取り組んでいる子どもが主体的に学ぶための授業づくりの充実を目指すとともに、児童一人一人が自分の取組を振り返り、次の課題に生かそうとする力を育成していきます。

○定着するまで繰り返すことも大切なので、授業や家庭学習での反復を大切に指導します。

○書くことへの抵抗感をなくし、一定量の文章を苦なく書けるように、全校で週に1回取り組んでいる日記を書く取組を継続します。

【算数】…全国平均を下回っています。

□学習指導要領の領域

「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」…下回っている

□評価の観点

「知識・技能」「思考・判断・表現」…下回っている

□問題形式

選択式 短答式 記述式 …下回っている



【数と計算】

・「整数と小数の減法の計算をすることができるかどうかをみる」問題や「異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」問題などで、全国平均を下回っています。

【図形】

・「立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる」問題や「直方体の箱の形を構成する面について理解しているかどうかをみる」問題などで全国平均を下回っています。

【測定・変化と関係】

- ・「百分率で表された割合と比較量から、基準量をもとめることができるかどうかをみる」問題などで全国平均を下回っています。

【データの活用】

- ・「帯グラフの特徴と使い方を理解し、およその割合を読み取ることができるかどうかをみる」問題や「集計された二つの表から、集計に誤りのある項目を見つけ、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述できるかどうかをみる」問題などで全国平均を下回っています。
- ・複数の領域にまたがった「日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」問題で平均正答率が下回っています。
- ・記述式や短答式の問題で無回答の割合が、全国平均より低い問題もいくつかあり、児童の頑張りが見られました。

【改善の方向】

○基礎的な四則計算が定着するように、ICTドリル（スマイルネクスト）や復習プリント等を活用して既習事項の復習をする機会を設定し、積み残しをしない取組を進めます。（朝学習・授業中の定着場面・週末の宿題）

○課題解決に向けて試行錯誤を繰り返すことができる場面を設定し、最後まで課題に向き合って取り組むことができる児童を育成していきます。

○四則計算など反復することで定着することを目指し、担任外の教員が中心となって、給食準備時間等のすきま時間を活用し、九力検定を実施したり、放課後には、計算塾を開催し、学力テストで課題となった分野を中心にプリントに取り組みせたりしていきます。

○低学年の時期に、積極的に具体物や半具体物を用いて、量感覚を育成します。（ブロックやおはじきなど、使いたいときに使って数量感覚を養います。）

【児童質問紙】から（○よい点：全国平均より肯定的な回答 ■課題：全国平均より肯定的な回答が少ないもの）

○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

○昼休みや放課後に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室（電子図書館を含む）にどれくらい行きますか。

○授業では、図形や数直線など図が示された問題では、問題を解くときに図が役に立つと思いませんか。

■学習した内容について、わかった点やよくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

■自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いませんか。

■学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

■困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。

児童質問紙について

・児童会主催の「なかよし集会」や柏陽中学校での「いじめ撲滅集会」の参加を通していじめは絶対にいけないことだという意識の高まっているという傾向が見て取れます。

・「読書のまち 恵庭」として朝読書を含めた読書活動の成果として、読書に親しみ、興味関心をもって意欲的に読書をしている児童が多い傾向が見て取れます。

・今まで取りくんできたUDL（（学びのユニバーサルデザイン）の授業づくりにおいて、特に算数で、個別最適な学びを意識した授業づくりの成果として、図等が役に立つと実感している児童が多い傾向が見て取れます。

・学習した内容の振り返りや、学びの継続性がうまくいっていない児童がいることが見て取れます。

・考えの違いがあるからこそ学びが深まったり、多様な考えが生み出されたりすることの楽しさを味わえていない児童が一定数いることが見て取れます。

・困っているときや不安を感じたときに相談できると答えている児童も多くいる一方、そうではないと答える児童も一定数いることが見て取れます。

【対策】

・学習のゴール（学習で何ができるようになるか）を確認し、授業の中で対話の場面や自己の学びを振り返る機会を適切に設け、自己調整して学習できる力を継続して育成していきます。

・今後も家庭と連携し、放課後の時間の使い方、学習の仕方を見直していけるように指導します。

・学校の職員全員が広い視野にたって、全校児童に温かく関わっていくことで児童への安心感を醸成できるように引き続き努力します。また、経営方針の重点「笑顔いっぱいの若草の子」の実現を目指し、楽しい学校づくりに引き続き取り組みます。